

# ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



たった「命」を守る！

四月のお誕生会がありました。お誕生会は、その月の生まれの子どもたちをみんなで集まって祝いする幼稚園らしい行事です。お家の方からのお言葉もあり、それは子どもたちへの愛おしい思いに溢れ、一人一人が、どれほどかけがえのない「命」であるかを肌で感じられる場面でもあります。あたり前ですが「命」は一つです。

さて、昨今の交通事故による痛ましいニュースは、否が応でもこの「命」を守ることの難しさを示しています。交通ルールを守っていてもこんなことが起きてしまうのかと絶句させられます。車は、歩行者にとつて凶器であること、運転する身でもある私たちは一層肝に銘じなければなりません。

附属幼稚園は、保護者が責任をもって送り迎えをすることと条件とさせて頂いています。送迎の経路の歩道も100%安全ではありません。また、構内への車の乗り入れも大きなリスクが存在することを今一度認識して下さい。万が一事故が起きた場合は、加害側も被害側も、想像を絶する悲惨な境遇に一生身を置くこととなります。

「命」を動かすこととは「子どもを動かす（連れていく）」こととは

これは、管理職としての覚悟を求め、先輩から頂いたアドバイスです。管理職だけでは無く、担任であつても、人のお子さんを預かる場合はいつでも、連れて行くのは、たつた一つの「命」であるという事です。そう考えれば、決して軽々な気持ちで子どもを動かすことはできません。さて、本園は、広い敷地と豊かな自然に恵まれていて、子どもたちを連れて園外に出る機会も多くはありますが、送迎のリスクは小さくなく、改めて注意を喚起したいと思います。また、子どもたち自身にも「自分の命は自分で守る」安全教育を強化してまいります。各家庭でも「我が子は横断歩道で一旦止まって左右確認すること」が、当たり前前のこととして身につけているのか？「自己責任で答えること」からお願いしたいと思います。共に関心を合わせ、子どもたちの命を守ってまいります。今年度もご協力お願い致します。

## 玄関脇にある。。。これは何の花でしょう？

昨年は裏庭にバナナの木があることをお伝えしてちよっぴり反響があつたのですが、今年はこれです！

これは、玄関わきのオリーブの木です。あまりに地味で、目立たないため、水ももらえず枯れ木のようにした。今年に入り、意識して水を与えるようにしました。すると、小さな白い花をたわわにつけたのです。いつも見てやり、水をやり、声を掛けると植物は応えてくれます。人間もきっと同じでしょうね。

実がならないかな？調べてみると、自家受粉できないため、もう一本傍に植える必要があるとのこと。



残念！！「じゃあ、もう一本植えよう！」思いついたら我慢できない園長は、ただ今、オリーブの苗を探しています！

## 「見よう見まね」ができるのは

ほぼ初めて集団の中に入った年少の子どもたちが、ものごとを一つずつ身につけていくさまは、本当にすごいです！

言葉よりも、目に見えるものからたくさんのことを学んでいます。さまざまな行動規範も学びます。お友だちの行動の「見よう見まね」がスタートです。集団の中で育てることがどれだけ大切か、手に取るようにわかります。

さあみんなおかたづけできるかな～？

